

伐採木保管槽の温度傾向

平成25年9月26日
東京電力株式会社

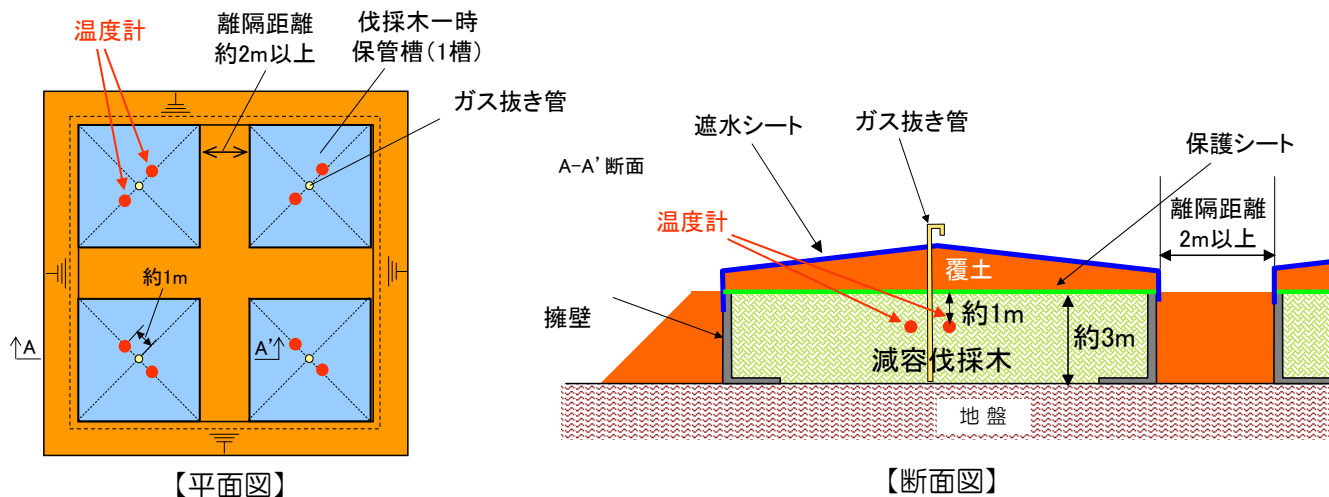


伐採木保管槽の夏期対策

伐採木は、火災リスクが高まる夏期（6月～9月）においては、昨年度同様、以下の運用とする

監視強化のため週3回、以下の項目を確認する。

- 各覆土保管槽の中央部の表層より深さ約1 mにおける温度測定
- 覆土の大幅な沈下や煙の発生等の異常が無いことを巡視により確認



伐採木一時保管槽 温度計位置概略図

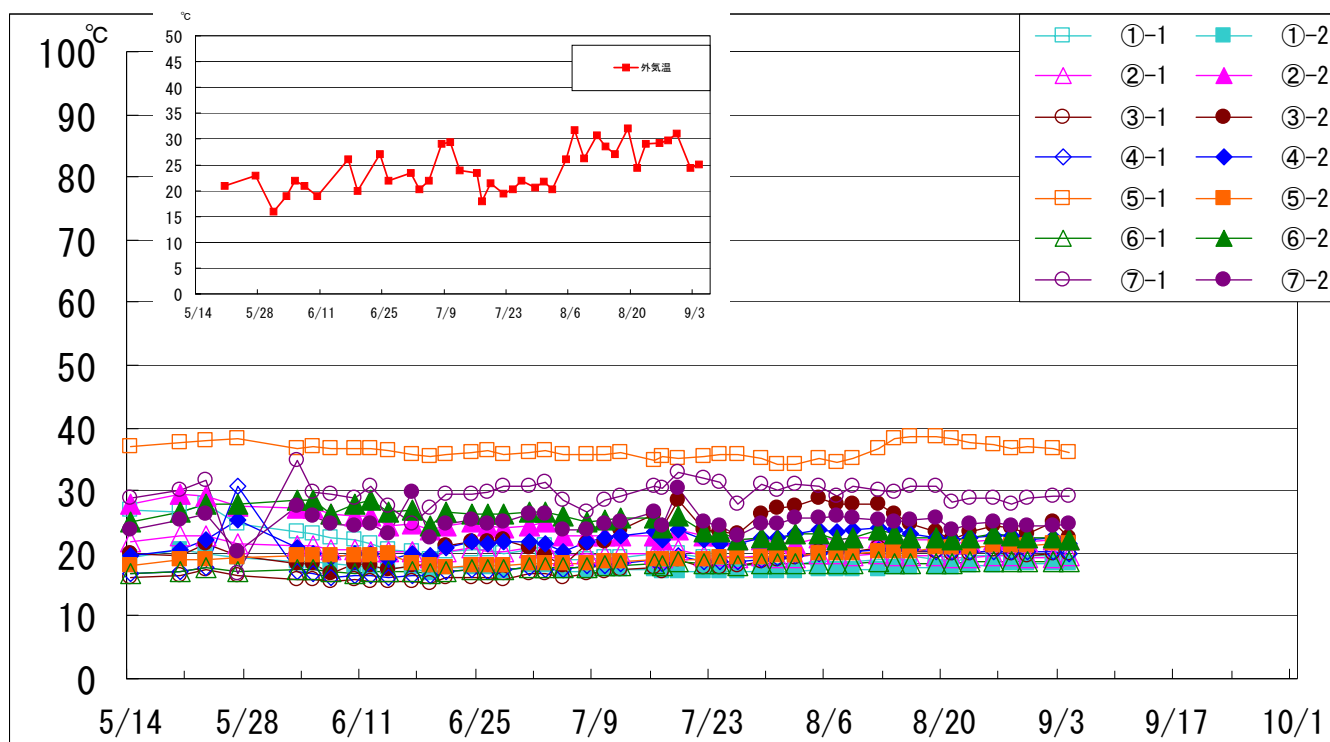
伐採木保管槽の温度上昇時の対応

伐採木一時保管槽は、生物反応による温度上昇を抑えるために、収納高さを約3mに制限すると共に、覆土・シートの敷設により燃焼の三大要素である「酸素」の供給を抑制する設計とし火災の予防を図っている。

ただし、万が一にも高い温度上昇が確認された場合においては、消防署殿の指導の元、以下の対応を実施することとしている。

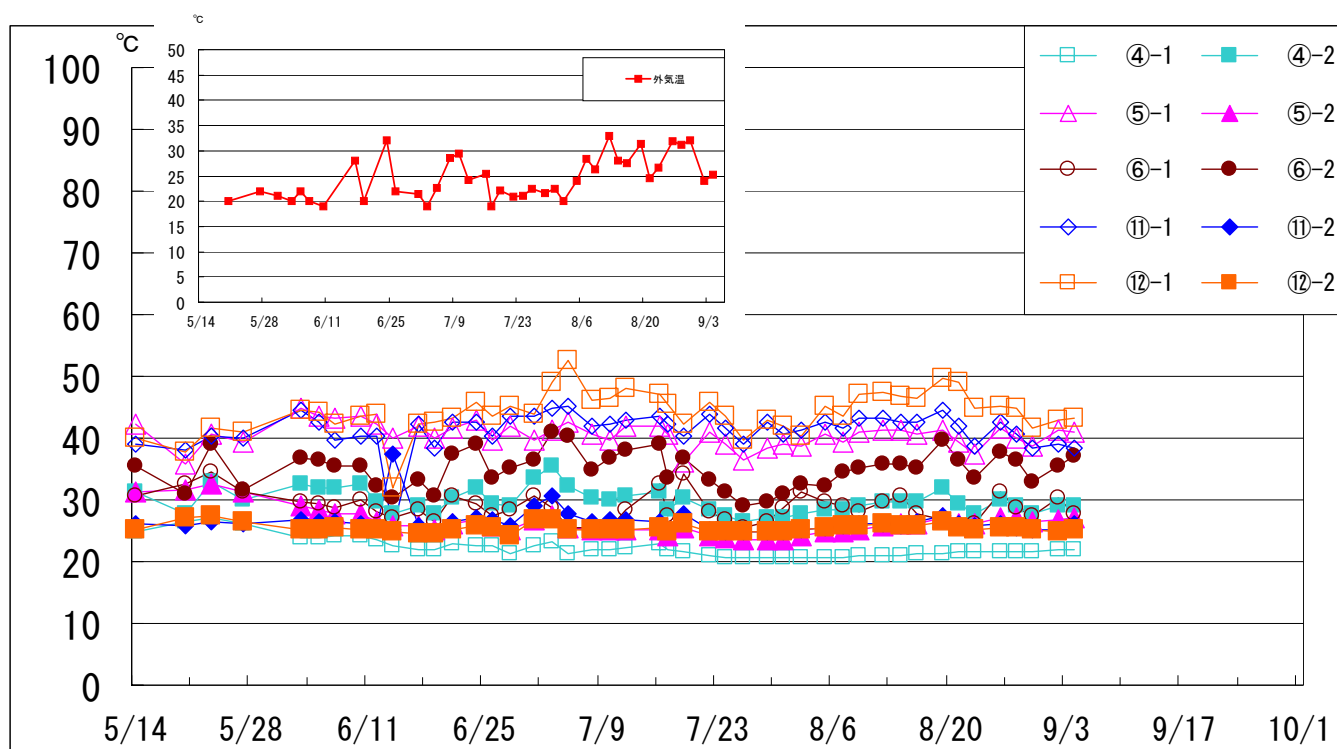
対応目安温度	対応方針
監視温度が70℃以上	当該覆土保管槽について、中央部を除く、4カ所のガス抜き管の位置(表層より約1mの深さ)についても温度計を追加設置し、温度監視を強化する。
監視温度が80℃以上	当該覆土保管槽について、ガス抜き管より、窒素ガスを注入し、保管槽の不活性化を図ると共に、火災の兆候の有無(白煙発生等)の監視を強化する。
監視温度が100℃以上	各消防署へ速やかに情報提供し、指示を仰ぐ。

エリアG北



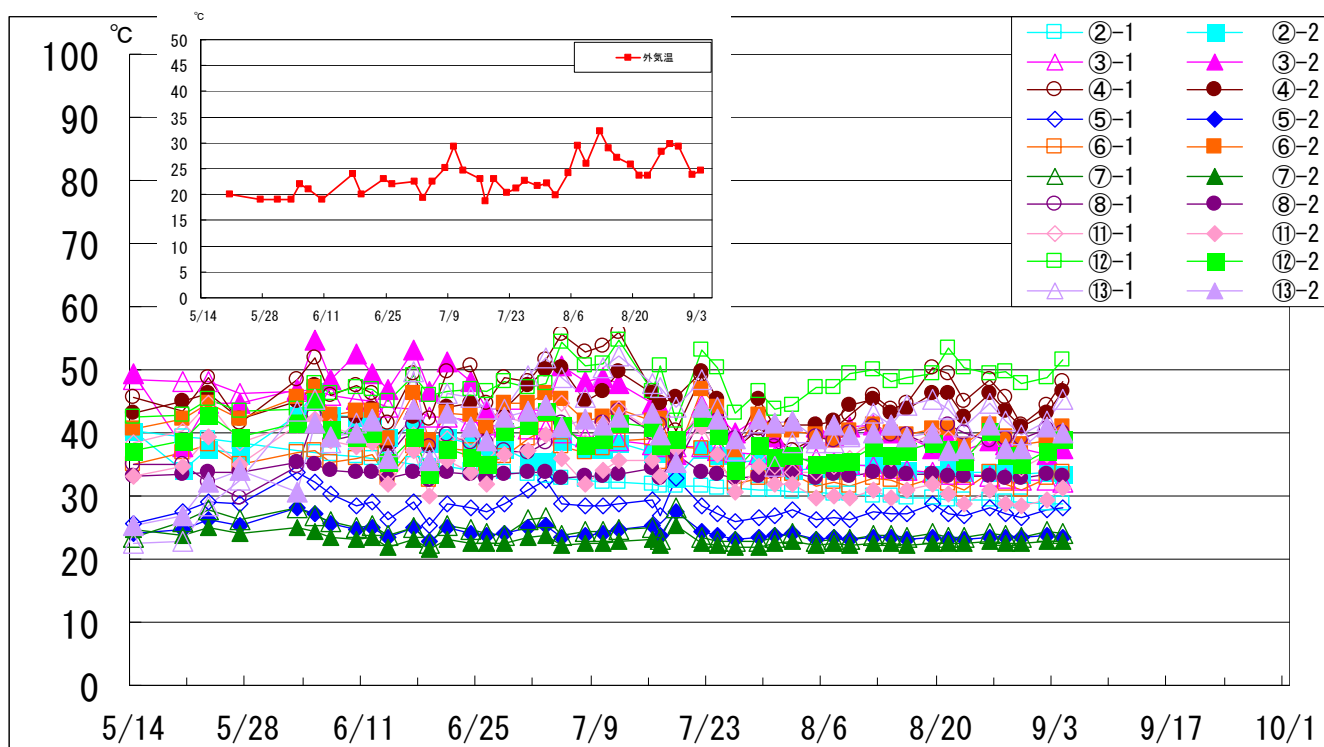
試験槽で見られた約60℃より十分低い温度で推移している

エリアG南



試験槽で見られた約60°Cより低い温度で推移している

エリアT



試験槽で見られた約60°Cより低い温度で推移している

【参考】保管槽の配置 エリアG



【参考】保管槽の配置 エリアT

